

古文「二方向の敬語」識別 100題ドリル

対象：高校生・大学受験生 | 著作権：誰でも古典塾 (kotennosensei.com) 無断転載禁止

はじめに

二方向（二方面）の敬語とは、1つの動作に謙讓語＋尊敬語が同時に使われ、2人の人物に同時に敬意を表す形です（例：「申し給ふ」＝申し〔謙讓・受け手へ〕＋給ふ〔尊敬・する人へ〕）。

このドリルでは、傍線部の敬語を次の4タイプ（ア～エ）に分類します。

| 記号 | 種類 | 敬意の向き | 代表例 |
|----|--------------|-------------|-------------------|
| ア | 二方向敬語（謙讓＋尊敬） | 受け手と動作主の2人へ | 申し給ふ・奏し給ふ・聞こえさせ給ふ |
| イ | 尊敬語のみ | 動作主（する人）へ | 給ふ・おはす・のたまふ・思す |
| ウ | 謙讓語のみ | 受け手（される人）へ | 申す・奏す・奉る・参る |
| エ | 丁寧語 | 聞き手（読み手）へ | 侍り・候ふ |

鉄則 - 「謙讓語＋給ふ」の形を見たら二方向（ア）。例：申し給ふ・聞こえ給ふ・奏し給ふ。 - 同じ謙讓語でも、「給ふ」が付かなければ謙讓のみ（ウ）。例：申す・奏す・奉る。 - 一般の動詞＋給ふは尊敬のみ（イ）。例：笑ひ給ふ・立ち給ふ。

🎯 解き方のコツ

1. まず「給ふ」など尊敬語があるかを見る。
2. その前が謙讓語かを見る。謙讓語＋尊敬語なら二方向（ア）。
3. 尊敬語だけ（前が普通の動詞）→イ。謙讓語だけ（給ふなし）→ウ。
4. 侍り・候ふは丁寧語→エ（聞き手への敬意）。
5. 代表的な二方向：奏し給ふ・啓し給ふ・申し給ふ・聞こえ給ふ・奉り給ふ・参らせ給ふ・聞こえさせ給ふ・申させ給ふ。

採点表

| 部 | 問題 | 目標 |
|--------|----------|-------|
| 第1部 基礎 | Q1～Q20 | 18／20 |
| 第2部 標準 | Q21～Q50 | 24／30 |
| 第3部 応用 | Q51～Q80 | 22／30 |
| 第4部 入試 | Q81～Q100 | 14／20 |

【第1部】基礎（Q1～Q20）

Q1. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

> 中納言、帝に事の由を申し給ふ。

Q2. 次の傍線部「笑ひ給ふ」は、ア～エのどれか。

> 大臣、いとをかすと笑ひ給ふ。

Q3. 次の傍線部「申す」は、ア～エのどれか。

> 家来、主にありのままを申す。

Q4. 次の傍線部「侍り」は、ア～エのどれか。

> 「われ、ここに侍り」と申す。

Q5. 次の傍線部「聞こえ給ふ」は、ア～エのどれか。

> 女御、帝に御消息を聞こえ給ふ。

Q6. 次の傍線部「おはす」は、ア～エのどれか。

▶ 姫君、こなたにおはす。

Q7. 次の傍線部「奉る」は、ア～エのどれか。

▶ 姫、宮に御文を奉る。

Q8. 次の傍線部「候ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 「きやうのこと、よく存じて候ふ」と言ふ。

Q9. 次の傍線部「奏し給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大臣、帝に国の事を奏し給ふ。

Q10. 次の傍線部「のたまふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大将、近き人々に、かくのたまふ。

Q11. 次の傍線部「参る」は、ア～エのどれか。

▶ 后、夜更けて内裏に参る。

Q12. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 女御、帝に御琴を奉り給ふ。

Q13. 次の傍線部「思す」は、ア～エのどれか。

▶ 大臣、いとほしと思す。

Q14. 次の傍線部「啓す」は、ア～エのどれか。

▶ 大納言、中宮に静かに啓す。

Q15. 次の傍線部「仕うまつり給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 上達部、帝に仕うまつり給ふ。

Q16. 次の傍線部「御覧ず」は、ア～エのどれか。

▶ 帝、めづらしき絵を御覧ず。

Q17. 次の傍線部「聞こゆ」は、ア～エのどれか。

▶ 女、忍びて男に聞こゆ。

Q18. 次の傍線部「はべり」は、ア～エのどれか。

▶ 「その事、たしかにはべり」と答ふ。

Q19. 次の傍線部「参り給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 后、帝の御前に参り給ふ。

Q20. 次の傍線部「召す」は、ア～エのどれか。

▶ 帝、笛の上手を**召す**。

【第2部】標準 (Q21～Q50)

解答：

Q21. 次の傍線部「聞こえさせ給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 女御、帝に夜もすから**聞こえさせ給ふ**。

Q22. 次の傍線部「立ち給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大臣、座を**立ち給ふ**。

Q23. 次の傍線部「奏す」は、ア～エのどれか。

▶ 蔵人、帝に火急の事を**奏す**。

Q24. 次の傍線部「申させ給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大納言、帝に委しく**申させ給ふ**。

Q25. 次の傍線部「候ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 「ただ今、まかり出でて**候ふ**」と言上す。

Q26. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 中宮、帝に果物を**奉り給ふ**。

Q27. 次の傍線部「のたまはす」は、ア～エのどれか。

▶ 帝、近臣に、かくのたまはす。

Q28. 次の傍線部「承る」は、ア～エのどれか。

▶ 家臣、主の仰せを承る。

Q29. 次の傍線部「参らせ給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大臣、宮に御琴を参らせ給ふ。

Q30. 次の傍線部「おはします」は、ア～エのどれか。

▶ 帝、清涼殿におはします。

Q31. 次の傍線部「申す」は、ア～エのどれか。

▶ 翁、姫に思ふことを申す。

Q32. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大納言、帝に御礼を申し給ふ。

Q33. 次の傍線部「思しめす」は、ア～エのどれか。

▶ 帝、あはれと思しめす。

Q34. 次の傍線部「啓し給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大夫、東宮に祝ひの言葉を啓し給ふ。

Q35. 次の傍線部「侍り」は、ア～エのどれか。

▶ 「かかる事も、世には侍り」と語る。

Q36. 次の傍線部「聞こゆ」は、ア～エのどれか。

▶ 大臣、帝に御消息を聞こゆ。

Q37. 次の傍線部「渡り給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 中宮、御堂に渡り給ふ。

Q38. 次の傍線部「奏し給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 関白、帝に世の有様を奏し給ふ。

Q39. 次の傍線部「参る」は、ア～エのどれか。

▶ 上達部、こぞりて内裏に参る。

Q40. 次の傍線部「聞こえ給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 後の宮、帝に御文を聞こえ給ふ。

Q41. 次の傍線部「仰す」は、ア～エのどれか。

▶ 帝、蔵人に、とく参れと**仰す**。

Q42. 次の傍線部「奉る」は、ア～エのどれか。

▶ 翁、帝に玉の枝を**奉る**。

Q43. 次の傍線部「仕うまつり給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 諸卿、帝に忠を尽くして仕うまつり**給ふ**。

Q44. 次の傍線部「候へ」は、ア～エのどれか。

▶ 「我こそ、その者にて**候へ**」と名のる。

Q45. 次の傍線部「給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大臣、御簾を上げて、外を見**給ふ**。

Q46. 次の傍線部「啓す」は、ア～エのどれか。

▶ 女房、中宮に小声にて**啓す**。

Q47. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 右大臣、左大臣に、ねむごろに**申し給ふ**。

Q48. 次の傍線部「おはすれ」は、ア～エのどれか。

▶ 中將、ただ今こそ西の対におはすれ。

Q49. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 姫君、父大臣に文を奉り給ふ。

Q50. 次の傍線部「まうづ」は、ア～エのどれか。

▶ 人々、初瀬の寺にまうづ。

【第3部】 応用 (Q51～Q80)

解答：

Q51. 次の傍線部「聞こえさせ給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 中宮、帝にこまやかに聞こえさせ給ふ。

Q52. 次の傍線部「思す」は、ア～エのどれか。

▶ 院、来し方をあはれと思す。

Q53. 次の傍線部「奏す」は、ア～エのどれか。

▶ 博士、帝に暦のことを奏す。

Q54. 次の傍線部「申させ給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 摂政、帝に政の事を申させ給ふ。

Q55. 次の傍線部「給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大将、馬より下り給ふ。

Q56. 次の傍線部「承り給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大臣、帝の仰せを承り給ふ。

Q57. 次の傍線部「侍り」は、ア～エのどれか。

▶ 「げに、ことわりに侍り」と申しけり。

Q58. 次の傍線部「奉る」は、ア～エのどれか。

▶ 海人ども、贄（にへ）を宮に奉る。

Q59. 次の傍線部「啓し給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 別当、東宮に事の子細を啓し給ふ。

Q60. 次の傍線部「のたまふ」は、ア～エのどれか。

▶ 殿、御簾のうちより、かくのたまふ。

Q61. 次の傍線部「参り給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 女御、初めて内裏に参り給ふ。

Q62. 次の傍線部「聞こゆ」は、ア～エのどれか。

▶ 乳母、姫君に泣く泣く**聞こゆ**。

Q63. 次の傍線部「おはします」は、ア～エのどれか。

▶ 上皇、御堂にお**はします**。

Q64. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大納言、東宮に剣を**奉り給ふ**。

Q65. 次の傍線部「候ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 「君の御ため、命も惜しからず**候ふ**」と言ふ。

Q66. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 中納言、大将に、つつしみて**申し給ふ**。

Q67. 次の傍線部「召す」は、ア～エのどれか。

▶ 院、医師（くすし）を急ぎ**召す**。

Q68. 次の傍線部「奏し給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大臣、帝に勝利の由を**奏し給ふ**。

Q69. 次の傍線部「参る」は、ア～エのどれか。

▶ 殿上人、夜居に御前に**参る**。

Q70. 次の傍線部「思しめす」は、ア～エのどれか。

▶ 帝、いとほしと**思しめす**。

Q71. 次の傍線部「聞こえ給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 母君、姫君に教へを**聞こえ給ふ**。

Q72. 次の傍線部「承る」は、ア～エのどれか。

▶ 使ひ、帝の御言葉を**承る**。

Q73. 次の傍線部「のたまはす」は、ア～エのどれか。

▶ 中宮、女房どもに、やはらかに**のたまはす**。

Q74. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 女御、後の宮に御衣を**奉り給ふ**。

Q75. 次の傍線部「はべり」は、ア～エのどれか。

▶ 「さること、昔よりは**はべり**」と古老の言ふ。

Q76. 次の傍線部「申す」は、ア～エのどれか。

▶ 翁、帝に名をば讃岐の造と申す。

Q77. 次の傍線部「仕うまつり給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 諸大夫、院に久しく仕うまつり給ふ。

Q78. 次の傍線部「御覧ず」は、ア～エのどれか。

▶ 中宮、絵物語を御覧ず。

Q79. 次の傍線部「啓す」は、ア～エのどれか。

▶ 蔵人、東宮に火急の事を啓す。

Q80. 次の傍線部「参らせ給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大臣、帝に御薬を参らせ給ふ。

【第4部】入試 (Q81～Q100)

解答：

Q81. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大納言、帝の御前にかしこまりて、ことによしを申し給ふ。

Q82. 次の傍線部「のたまふ」は、ア～エのどれか。

▶ 大将、人々をかへりみて、かくなむのたまふ。

Q83. 次の傍線部「奏し給ふ」は、ア～エのどれか。

> 関白殿、帝に万歳楽の終はりしよしを**奏し給ふ**。

Q84. 次の傍線部「奉る」は、ア～エのどれか。

> 国々の民、年ごとの調（みつぎ）を朝廷に**奉る**。

Q85. 次の傍線部「候ふ」は、ア～エのどれか。

> 「この笛のこと、よく心得て**候ふ**」と楽人申す。

Q86. 次の傍線部「聞こえさせ給ふ」は、ア～エのどれか。

> 女御、帝に、夜一夜（よひとよ）昔のことを**聞こえさせ給ふ**。

Q87. 次の傍線部「おはします」は、ア～エのどれか。

> 法皇、嵯峨の御堂にお**はします**。

Q88. 次の傍線部「啓し給ふ」は、ア～エのどれか。

> 中納言、中宮に、御賀のことを**啓し給ふ**。

Q89. 次の傍線部「参らす」は、ア～エのどれか。

> 受領（ずりやう）の妻、わが娘を宮仕へに**参らす**。

Q90. 次の傍線部「思す」は、ア～エのどれか。

▶ 帝、月を御覧じて、過ぎにし方をあはれと**思す**。

Q91. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 後の宮、帝に、手づから縫ひたる御衣を**奉り給ふ**。

Q92. 次の傍線部「申す」は、ア～エのどれか。

▶ 老いたる女房、姫君に昔物語を**申す**。

Q93. 次の傍線部「仕うまつり給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 上達部・殿上人、こぞりて院に仕うまつり**給ふ**。

Q94. 次の傍線部「仰せらる」は、ア～エのどれか。

▶ 帝、大臣を召して、かく**仰せらる**。

Q95. 次の傍線部「聞こえ給ふ」は、ア～エのどれか。

▶ 母北の方、入道殿に、姫君のことを**聞こえ給ふ**。

Q96. 次の傍線部「侍り」は、ア～エのどれか。

▶ 「かやうの所には、鬼も住むと**聞き侍り**」と語る。

Q97. 次の傍線部「奏し給ふ」は、ア～エのどれか。

> 摂政、御簾の外にて、帝に火急の事を**奏し給ふ**。

Q98. 次の傍線部「給ふ」は、ア～エのどれか。

> 院、池の蓮を眺めて、しばし立ち止まり**給ふ**。

Q99. 次の傍線部「奉る」は、ア～エのどれか。

> 諸国の受領、おりふしの貢ぎ物を院に**奉る**。

Q100. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

> 大臣、御前にさぶらひて、帝に世のまつりごとを**申し給ふ**。

採点・振り返り

| 部 | 点数 |
|-------------------|-------------|
| 第1部 基礎 (Q1～Q20) | /20 |
| 第2部 標準 (Q21～Q50) | /30 |
| 第3部 応用 (Q51～Q80) | /30 |
| 第4部 入試 (Q81～Q100) | /20 |
| 合計 | /100 |

復習のポイント - 二方向の敬語 (ア) = 謙讓語 + 尊敬語。「申し給ふ・奏し給ふ・聞こえさせ給ふ」のように、謙讓語のあとに「給ふ」など尊敬語が付く。 - 謙讓は受け手へ / 尊敬は動作主へ。だから「中納言、帝に申し給ふ」は、帝 (受け手) と中納言 (動作主) の両方を敬っている。 - 「給ふ」が付かなければ謙讓のみ (ウ)。申す・奏す・奉る・参るなどは単独なら受け手だけへの敬意。 - 侍り・候ふは丁寧語 (エ) で、聞き手への敬意。尊敬・謙讓とは別。

解答：

